科目名	ボランティア　　Theory of Volunteerism						
科目担当者	岩切 道雄　　IWAKIRI Michio						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義／演習	開講学期	後期
履修学部・学科［区分］	経営学部・経営学科［専門教育科目　進路支援科目］ 法学部・法律学科［専門教育科目　進路支援科目］					ディプロマポリシーとの関連	(4)(5)
授業の概要	本講義は、サービス・ラーニングの考えをもとにボランティア論、ＮＰＯ論、協働、連携、共創を考えいきます。これから社会人となる大学生が市民としてのボランティア活動、ＮＰＯ活動、協働とは何かを考えるそのきっかけになります。福祉だけでなく、スポーツ、まちづくり、ソーシャルビジネス、ＣＳＲを対象とする。それらを捉えて、身近な地域の実態や課題、課題解決のために市民として、主体的に参加し、協働、連携、共創の手法を活用して、課題解決につなげる方策の理解を深めることを目的とする。						
授業の到達目標	①　ボランティア活動、ＮＰＯ活動の多様な側面、活動実践について理解する。 ②　　市民としてのボランティア活動や活動の効果を高める協働、連携、共創を理解して、具体的にイメージすることができる。 ③　ボランティア原理である主体性、自主性、創造性を身に付ける。 ④　他者との協働に求められるコミュニケーション力を身に付ける。 ⑤　地域を理解し、地域課題を認識することができる。						

授業計画・内容		
	1	サービス・ラーニングとボランティア、ＮＰＯ
	2	活動におけるコミュニケーションの重要性
	3	ボランティアの歴史
	4	ボランティアと NPO
	5	ボランティア活動、ＮＰＯ活動の多様な側面　組織面から、活動面から
	6	地域での実践①　ゲストティチャーによる講義　日本赤十字社
	7	地域での実践②　ゲストティチャーによる講義　社会福祉協議会
	8	地域での実践③　ゲストティチャーによる講義　宮崎ライフセービングクラブ
	9	ボランティア、ＮＰＯとの協働、多様な主体の協働
	10	ボランティア、ＮＰＯ、民間企業、行政との連携
	11	ボランティア、ＮＰＯ、民間企業、行政との共創、プラットフォーム
	12	実践に向けてのテーマ設定
	13	活動の調査のまとめ
	14	活動の発表・まとめの再構築
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	次の講義内容について示された内容について事前に調べて確認するとともに、地域を理解するために新聞で情報収集に努める。（毎週２時間程度）
授業外学修 (事後学修)	毎回学修内容を振り返るとともにボランティアを積極的行うなど、中間発表を含むレポート作成に関連して自主的に調査・活動に取り組む。（毎週２時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験（中間発表・最終レポート２回）	40%	①②
	毎時間の発表等	20%	③④⑤
	ミニッツペーパー等（毎時間の提出物）	40%	①②③④⑤

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	
参考文献	適宜授業で指示する。
その他	ボランティアを志す学生として、授業に対する心構えや熱意が必要である。